

各領域の「授業科目」の概要

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
地域 健康 シ ス テ ム 看 護 学	地域看護学Ⅰ 教授 西嶋真理子	特 論	地域看護学が対象とする領域の中で特に集団の健康支援のための理論と看護実践について学び、地域、学校、職場等の生活の場で、集団全体の健康のレベルアップのために応用できる援助技術を追究する。それにより、人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるプロセスを支援するために必要な地域看護ケアの展開方法と技術を学修する。
		特別演習	地域で生活する人々の健康の向上をめざして、地域看護学の領域の中でも特に個人、家族、集団のニーズ分析、ニーズに合った介入方法、組織的働きかけ、社会資源の開発等について、国内、海外の文献を活用して、討議する。また、地域看護ケアの評価についても演習をとおして学修を深める。
	地域看護学Ⅱ 教授 藤村 一美	特 論	地域看護学の主要な理論や概念を学び、多様なライフサイクルや健康レベルにある個人・集団・コミュニティを対象とした地域看護活動のあり方、課題や展望について学修する。特に、コミュニティ概念の理解、地域の健康課題を明らかにするための情報収集とアセスメントの方法、活動計画、実施、評価方法について、最新の先行研究、保健統計データの解説、先駆的事例、討議等を通じて理解を深める。
		特別演習	地域看護学における国内外の研究の動向と課題を文献講読、討議により学修するとともに、地域保健活動のプログラムやシステムを開発、評価するための介入研究のあり方について探求する。
	高齢者看護学 教授 陶山 啓子	特 論Ⅰ	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し、高齢者の心理・社会性や健康上の課題と、高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに、老年看護専門看護師の役割・機能について理解する。
		特別演習Ⅰ	慢性期～回復期の複雑で多様な疾病や症状及び健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに、高齢者の病態や症状、高齢者及び家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし、高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。
	在宅看護学 准教授 田中久美子	特 論	地域ケアシステムにおける在宅看護の現状や、医療と福祉の状況について把握し、療養者を中心とした在宅看護の諸理論と方法について学修する。 また、医療と福祉の連携における在宅看護の現状と課題について探る。
		特別演習	在宅や福祉施設で療養生活を送る高齢者を対象とした研究論文を検索し、それらの考察や討議を通して、在宅ケアのあり方を探求する。
	在宅高齢者看護学 講師 小岡 亜希子	特 論	高齢者の発達課題及び環境との相互作用について理解し、高齢者観を深めるとともに援助者のあり方を考える。 さらに、高齢者のその人らしい生活を支援するために、理論に基づく援助方法を学ぶ。
		特別演習	高齢者の包括的な機能評価の意義と方法を理解し、対象者が必要としている看護援助を明確にする。 さらに、排泄及び摂食嚥下機能に関する機能評価の方法と機能に応じた援助方法について理解し、研究成果の看護実践への活用について検討する。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
地域健康システム看護学	老年精神地域包括ケア学 教授 谷向 知	特 論	現在、高齢者をとりまくわが国あるいは世界の現状、今後わが国が推進しようとしている施策について概観し、高齢者、特に認知症の人とその介護者についての理解を深め、医療人のプロとして如何に関わるかについて学修する。認知症を呈する代表的な疾患について学ぶとともに、認知機能障害やうつ、妄想、意識障害などについて考えられる心理的、あるいは神経基盤について考えながら、エビデンスとナラティブの両面からアプローチできる知識と知恵の修得を文献、症例検討などを通して目指す。
		特別演習	医療・介護あるいは地域・在宅の現場で感じられるさまざまな問題、疑問を研究テーマに取り上げる。日常の疑問点を検証し、直観を確証に発展させるために、評価法や過去の文献を学び、研究をデザインし、データ収集し、ディスカッションを行う。認知症看護、老年看護の専門職として確信を持って臨床現場で看護・介護指導、多職種との建設的な意見交換に還元されるエビデンスとコミュニケーションスキルを身につけることを目指す。
	地域精神看護学 講師 柴 珠実	特 論	精神看護学が対象とする事象のうち、各自の看護実践の中でとくに問題解決のために働きかける必要があると認識していることや、地域で生活する障害児者や認知症者、及びその家族の生活支援についてとりあげる。諸理論や先行研究に基づいて現状を把握し、知識を修得するとともに、看護上の課題を明確にする。また、参加者による意見交換から様々なアプローチ法について検討する。
		特別演習	地域でのフィールドワークを実施する。特論で得られた視点を持って臨み、現地でのディスカッション等の成果を含めてレポートをまとめ、研究課題を明確化する。
	看護生理学 教授 佐伯 由香	特 論	看護技術が提供された際、対象者の身体にどのような変化が起こるのか、また何を評価指標とすればよいのか、そしてそれはどのような機序で起こるのか、生理学的な視点から看護技術の科学的根拠を探究する方法を学修する。また、国内外の研究論文を題材に、研究を行う上で必要とされる論理的な思考能力を養う。
		特別演習	生理学的手法を用いて、実際に行われているケアが対象者にどのような影響を及ぼしているのか、自ら実験して評価してみる。また、より効果的なケアについて考察し、看護技術の科学的検証について学修を深める。
基盤実践看護学	基盤看護学Ⅰ 教授 乗松 貞子	特 論	対象者に安全・安楽で質の高いケアを提供するためには、科学的に裏付けられた看護技術を修得することが必要である。そこで、これまで臨床において経験的に実施されてきた看護技術のなかで、現在科学的検証のなされている内容について、そのEvidenceを文献を通して確認するとともに、科学的検証の方法論を学ぶ。
		特別演習	臨床において、これまで経験的に実施され、未だ科学的な根拠の明らかでない看護技術に関して、いくつかの内容を取り上げ、文献、調査、実験等の様々な方法論を用いて、そのEvidenceを明らかにし、科学的に裏付けられた看護技術を確立していくための基礎とする。
	基盤看護学Ⅱ 准教授 赤松 公子	特 論	調査研究では、数種類の尺度を用いて調査を行うことが多い。また、実験研究でも尺度を実験条件の割り当てなどに利用するが、既存の尺度が研究目的に適合しない場合には、新しい尺度を開発することになる。本特論では、既存の尺度を概観するとともに、尺度開発の手続きについて学修する。
		特別演習	本特別演習では、特論で学修した知識をもとに、自ら模擬的な尺度を構成する。そして、その尺度を用いて、調査、ならびに分析を行ってみる。最後に、学修者らの構成した尺度の特徴、適応の仕方、限界について議論する。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
基 盤 ・ 実 践 看 護 学	基盤看護学Ⅲ 講師 城賀本晶子	特 論	対象の性格特性は、健康の維持と回復を図る上で重要な役割を演じている。性格特性とは何か、如何に区分できるか、代表的な方法論を文献的に提示して、背景要因としての重要性を論じる。
		特別演習	自我状態の研究から確立された性格特性、さらに自我透過性調整力、ストレス対処行動様式などを採り上げて、性格特性について演習する。
	内科系 病態生理学 教授 重松 裕二	特 論	最近の生活習慣病対策の動向を把握し、生活習慣病に伴う心血管病の発症を予防するため、如何なる対策が最も効果的であるかについて文献的検討を行うとともに、看護の介入について学修する。
		特別演習	冠動脈硬化の診断に欠かせない最も基本的な検査法である心電図検査について概説し、実際の症例について診断を進める。また、生活習慣病をもつ患者や家族に対する生活習慣病予防教育の実際を学修する。
	外科系 病態生理学 教授 八杉 巧	特 論	生活習慣病の増加に伴い、血管疾患は増加傾向にある。動脈疾患と静脈疾患の差異を診断過程・病態・治療方法の面から対比し、現場の最善の対策と観察注意点について知識を深め、看護の役割について学修する。
		特別演習	血管疾患の診断に必須である局所所見の観察と状態の変化について解説し、実際の症例において病状把握のための判断を進め、その時点での必要な検査・初期治療について画像所見とともに学修する。また、入院期間中の効率的な治療・看護計画について考察を進める。
	成人看護学 教授 山内 栄子	特 論	成人期にある人の看護に関する概念についてのプレゼンテーションやディスカッションを通して、複雑で慢性・長期的あるいは急性な健康問題を抱える成人と家族の特徴と看護実践について探究する。
		特別演習	成人看護領域の関心のある課題についての文献検討を通して、複雑で慢性・長期的あるいは急性な健康問題を抱える成人と家族の支援に関する臨床上の疑問から研究課題を明確にし、研究計画書の作成につなげる。
	リプロダクティブ・ヘルス看護学 教授 嶋山 貴代	特 論	リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念を理解し、ライフサイクル各期にある女性の健康への影響要因や支持理論、ガイドラインを学び、女性の健康の向上に向けた支援方法を探求する。
		特別演習	フィールドでの経験を基に、ライフサイクル各期にある女性の対象理解や臨床判断を通じて、必要な看護モデルを検討する。
	小児発達看護学 教授 薬師神裕子	特 論	小児を対象とした成長発達、セルフケア、コーピング、プリパレーションについての理論やモデルを用いて、子どもの健康状態についてアセスメントを行い、小児看護の専門的な支援方法について学ぶ。また、小児をとりまく家族を支援の対象者として捉え、家族発達理論・家族システム理論、家族ストレス理論などの諸理論について学び、子どもや家族が必要としている援助方法を学修する。
		特別演習	小児看護の臨床場面において、臨床判断に基づき状況に応じた援助を行うための専門的な方法について学ぶ。文献や実践現場での具体的事例から子どもや家族の行動の理解と臨床判断の過程を分析し、小児看護の専門的な援助方法や技術、介入の効果についてディスカッションできる。小児と家族を対象とした看護研究の特殊性と基礎的知識や手法について学ぶ。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
共通科目	看護教育論	教授 陶山 啓子	看護教育制度の変遷や現状の課題及び生涯にわたって主体的に専門性を高めていける看護職育成のために必要な理論と方法を学修する。学修援助型の教育における教育者のあり方について、自らが経験した場面を活用して検討する。さらに、基礎教育、卒後・継続教育、患者教育における教育プログラムの作成をとおして、看護職が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得する。
	看護管理論	教授 乗松 貞子 非常勤講師 青山ヒフミ 松浦 正子	現在の医療制度などの外部環境を踏まえながら、看護管理のプロセスとしてのインプット（人、物、資金、情報、時間）、プロセス、アウトプット（看護成果、患者満足、職務満足、質改善、エンパワメント）について分析、探究する方法を学修する。そのために必要な思考を組織論、マネジメント理論、人的資源活用論、リーダーシップ理論などに関する文献学修をとおして養う。
	看護理論	准教授 赤松 公子	卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。講義では看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた理論と思想の変遷を理解し、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析する。またそれらの実践事例への適用を試み、その批判的検討を通じて、臨床看護の実践、理論、研究の基盤となる看護の理論的基盤を模索する。
	看護研究 方法論	教授 薬師神裕子 佐伯 由香 山内 栄子 藤村 一美	看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち、看護の実践知を論理的・体系的に捉え、看護実践の改善に役立てていくことが必要となる。本科目では、看護における研究の意義を理解し、看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を修得する。
	看護研究 演習	教授 山内 栄子 准教授 赤松 公子	看護研究における研究デザインや前提となる条件、科学的推論方法について学び、信頼性・妥当性の検証、データの活用方法を具体的かつ実践的に探求する。
	コンサルテーション論	非常勤講師 添田百合子 吉田美由紀	コンサルテーションの意義や方法等について受講生の経験を踏まえ、プレゼンテーションや討議をとおして学修する。さらに、コンサルテーション活動を行うために必要な医療専門職、保健や福祉領域の専門職に対して相談し、調整できる基礎的な実践力を修得する。
	看護倫理	教授 崎山 貴代	倫理的な看護実践の基盤となる理論や概念、倫理的意思決定に関する方法を学修する。臨床現場における事例検討を通して、倫理的問題を分析し、問題解決及び発生予防に向けた倫理調整の方法を探求する。
	看護政策論	教授 西嶋真理子 藤村 一美	人々のニーズに寄り添い、QOLを高める保健・医療・看護を実現するために、看護の質の向上を政策的に推し進めていくための仕組みや看護政策の機能を理解する。看護の歴史的展開過程を踏まえ、将来を展望し、現行の法制度における課題を分析する視点を持ち、演習をとおして課題解決や健康政策策定のための基礎的能力を修得する。
	地域包括ケア基礎論	教授 陶山 啓子 西嶋真理子 薬師神裕子 山内 栄子 崎山 貴代 准教授 田中久美子 講師 柴 珠美	講義や文献検討を通して地域包括ケアの概念や発達段階各期、公衆衛生領域における地域包括ケアの必要性について学修する。また、フィールドワークやディスカッションを通して、地域医療における現状と課題について検討する。
	生体情報論	教授 佐伯 由香 准教授 赤松 公子	人間の身体は、外部環境及び内部環境の変化を感知し、情報を統合することによってホメオスタシスを維持している。本科目では、生体が行っている情報処理の構造と機能を理解し、生体内で行われている生命活動を科学的かつ論理的に理解する能力及び看護実践に生かせる応用力を養う。

領域	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
共通科目	統計学	教授 藤村 一美	根拠にもとづく医療・看護・保健活動，及び看護研究（量的研究）において，必要な統計学やデータ処理の考え方，統計手法について教授する。統計ソフトSPSSを活用し，実際に統計解析への理解を深め，研究デザインやデータの特性に適した統計手法の選び方について学修する。
	臨床薬理学	教授 佐伯 由香 八杉 巧 谷向 知 重松 裕二	薬理学の基本的な知識を元に，使用されている薬剤の特徴，作用様式，副作用などを理解する。さらに実際に薬物療法を受けている患者のモニタリング，症状管理，服薬管理，服薬指導について具体的に学び，看護実践に活かす能力を高める。
	フィジカルアセスメント	教授 重松 裕二 佐伯 由香	看護実践に直結する対象からの看護情報を的確に収集し，アセスメントするための知識や技術を学ぶ。
	病態生理学	教授 佐伯 由香 八杉 巧 重松 裕二 谷向 知	主要な症候の起こるメカニズムを理解し，主な疾患と症状との関連，使用している薬剤との関連について理解を深め，エビデンスに基づいたアセスメントができる能力を養う。

老人看護専門看護師養成プログラム

	授業科目及び担当教員		授 業 科 目 概 要
専門分野基礎科目	高齢者看護学特論Ⅰ	教授 陶山 啓子	高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し，高齢者の心理・社会性や健康上の課題と，高齢者の潜在能力を引き出しQOLを高めるために必要な看護について理解を深めるとともに，適切な倫理的意思決定に基づいた看護が実践できる能力を養う。さらに，老人看護専門看護師の役割・機能について理解する。
	高齢者看護学特論Ⅱ	教授 陶山 啓子	高齢者の生活上のニーズを把握するために，総合機能評価に用いられる評価指標とその使用方法について理解する。また，ICFの提唱するモデルや総合機能評価を活用した看護実践について学修し，包括的なアセスメントの必要性や活用方法について理解する。
	高齢者病態治療論	教授 谷向 知	高齢者に起こりやすい疾患や判別を要する症状の病態・検査・治療について学修し，適切な判断に基づく看護を実践するために必要な知識・技術を修得する。
	高齢者生活援助論	教授 陶山 啓子	複雑な問題を抱える高齢者の健康課題や生活機能障害について，疾患の影響や診断・治療をふまえた身体・心理・社会機能のアセスメントに基づき，高齢者の潜在能力を引き出し，QOLの向上を意図した看護援助を選択し，実践できる能力を養う。
	高齢者支援システム論	准教授 田中久美子	日本の保健医療福祉施策の変遷，現状と展望を学ぶとともに，介護保険制度におけるサービス，制度外サービス及びソーシャルサポートの内容についての理解を深め，高齢者のニーズに応じたサービスが選択できる能力を養う。さらに，高齢者のケアシステムについて，地域の先進的な取り組みからシステム構築のプロセスを学び，高齢者ケアに必要なサービスやシステムについて提案できる能力を養う。
専門分野専門科目	高齢者看護学特別演習Ⅰ	教授 陶山 啓子	慢性期～回復期の複雑で多様な疾病や症状及び健康障害をもつ高齢者とその家族への看護を実践するために必要な理論やモデルについて学ぶとともに，高齢者の病態や症状，高齢者及び家族のセルフケア能力等を総合的にアセスメントし，高齢者の意思と暮らし方を尊重した援助が実践できる能力を養う。
	高齢者看護学特別演習Ⅱ	教授 陶山 啓子 谷向 知	認知症の原因疾患の特徴や薬物療法について理解を深めるとともに，認知症の病期や病態及びBPSDの誘因や要因を適切にアセスメントし，ケアを実践する能力や，認知症をもつ人とその家族が安全で安心して暮らせるための環境調整する能力を養う。

授業科目及び担当教員			授 業 科 目 概 要
実 習 科 目	高齢者実践 看護実習Ⅰ	教授 陶山 啓子	医療機関において慢性期～回復期の複雑で多様な疾病とその症状及び健康障害をもつ高齢者・家族に対し、疾患の病態生理と治療過程に基づいた検査・診断・治療の結果から、医学的判断を理解する。その上で、家族介護力と年齢に関連するセルフケア能力の低下、患者自身の意思を総合的にアセスメントし、在宅（施設）を見据えて、高齢者の健康レベルに応じた看護実践を提供する力を向上させる。
	高齢者実践 看護実習Ⅱ	教授 陶山 啓子	認知症を持つ高齢者の認知機能、認知症の種類、及び重症度を判断できる能力を養うとともに、認知症高齢者の抱える複雑で解決困難な健康問題や生活上の課題に対する高度な実践能力を獲得する。 また、認知症を持つ高齢者と家族へ必要な医療とケアが提供されるために、多職種との協働・連携及び調整する能力を身につける。 また、老人看護専門看護師へのシャドーイングを基に、専門看護師が実際に果たしている患者・家族及びスタッフに対する教育、相談、調整、研究活動、倫理調整の機能について理解を深める。また、老年看護の質の向上に向けた教育を実施、評価し、専門看護師の基盤となる能力を修得する。
	課題研究	教授 陶山 啓子	高齢者看護を実践する中で生じた疑問や課題について、研究テーマを設定し、研究計画を作成し、研究を実施することによって、専門看護師として実践上の課題を解決するための研究能力を養う。
共 通 科 目 A	看護教育論 看護管理論 看護理論 看護研究方法論 コンサルテーション論 看護倫理 看護政策論		共通授業科目参照
共 通 科 目 B	臨床薬理学 フィジカルアセスメント 病態生理学		共通授業科目参照

(2021年7月1日現在)